

保健学実践教育研究センター  
を中心に新たな挑戦

前号にひきつづき、長崎大学医学部の最前線をご紹介します。今回は保健学科です。

田中悟郎保健学科長にお話を聞きました。

「医学部保健学科の歴史は古く、明治三十六（一九〇三）年に県立長崎病院附属看護婦養成所として発足して今年で一二二年になります。原爆で壊滅的な被害をうけましたが、諫早や大村に場を移して教育が続けられてきました。昭和五十九年には長崎大学医療技術短期大学部として看護学科、理学療法学科、作業療法学科が設置されました。平成十三年には長崎大学医学部保健学科となり、その後、修士・博士課程ができました」。

時代のニーズに対応しながら、看護学、理学療法学、作業療法学の三つの専攻と大学院が確立されています。大学院教育では、高度な臨床能力や研究能力、地域貢献能力を備えた高度専門職業人の育成を推進しています。例えば、がんや放射線、遺伝など専門的な知識を持つ看護師や助産師の養成コースを持ち、各ジャンルのスペシャリストが指導しています」。

一度社会に出た現職者を対象とした教育も行われていると聞きました。「保健学科では、昨年度二つの高度医療人材養成のための社会学び直しプログラムが文部科学省の支援を受けることになりました。一つは「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」（三年間）、もう一つは理学療法士と作業療法士を対象にした「高度リハビリテーション専門職の養成―長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム―」（五年間）です。これらのプログラムを通じて地

長崎大学のいま!

医学部

保健学科

目指すのは  
リーダーの資質をもつ  
高度医療人材の育成



田中悟郎  
医学部 保健学科長

たなか 悟郎  
長崎大学医学部保健学科作業療法学専攻教授。九州大学大学院人間環境学府博士課程修了。青年海外協力隊、国立肥前療養所、北九州市立イケアセンター、長崎大学医療技術短期大学部等を経て平成二十年より現職。専門は精神障害作業療法学・精神障害リハビリテーション学。平成十六年四月より保健学科長。

域のニーズに応じた人材を育成していきます」。

この二つのプログラムの調整や、学部学生の現場での実習を組み立てるのが、昨年度内にできた保健学実践教育研究センター。統括する井口茂教授のお話です。

「実習プログラムは、学内の他学部や、病院、外部の施設や専門職能団体との綿密なコーディネートが欠かせません。かつてのように教員が個々に対応したり、病院・施設に委託したりするよりも、窓口を一本化して組織で取り組む方が効率も質も上がります。センターは保健学科全体の臨床教育の強化の支えをしているのです」。

理論も大切ですが、まず体が動くかどうか。社会での実践力は大学時の臨床実習の豊富さがカギなのだそう。

各専攻への  
高い求人倍率

保健学科の卒業予定者には求人が多く就職活動がスムーズというのは本当ですか？

「その通りです。看護学専攻の学生の場合、全国的に求人数は非常に多く、大学病院などほぼ学生が希望する職場に就職できています。また、理学療法学や作業療法学専攻の学生においても県内から卒業予定者数の約五倍の求人が毎年あり、全体で五割以上が長崎に就職しています。また昨年度は県外からの求人も四五〇〇名以上ありました」。

それはすごい！ところで、保健学科の講義棟は長崎大学病院を見下ろす坂本の高台にあり、学生は通うだけで体力がつきそうです。「医療者は体が資本ですからね

（笑）。とはいえ、確かに毎日の登り坂は少々大変かもしれません。そのため昨年、エレベーターが設置され、とても移動しやすくなりました。また、一部の講義室や実習室が大学病院とつながった旧歯学部C棟の四階に新設されました。大学病院での実習も多いので大変便利になりました」。

それは学生にとっても耳よりなニュースです。「現在、下の棟にできたのは講義室、実習室など四室だけですが、将来的には保健学科の学生が使用できる教室がさらに増えると思います」。

より高い専門性と多くの実習経験。一度実社会に出た後でも高度医療が学べる体制が医学部保健学科の強みといえます。



旧歯学部C棟に新しく併設された講義室。このほか実習室など4室あり。

ヨーロッパ研修ではジュネーブにおいて、世界保健機関(WHO)でも研修。

# がん、放射線、遺伝の 高度な専門知識を持つ 看護師へ

**専** 門看護師」という資格  
があります。長崎大学  
にも大学院保健学専攻看護学講  
座の修士課程にこの養成コース  
があります。専攻主任の大石和  
代教授にお聞きしました。「専  
門看護師は、高度実践看護師と  
も言われますが、ケアだけでな  
くキア（治療）を含めた専門  
的な知識や技術を持ち、保健医  
療福祉チーム全体の教育を担い  
ます。例えばがん看護専門看護  
師養成コースでは、薬物療法や  
幹細胞移植の看護、緩和ケアな  
どの科目があり、がんセンター  
などで実習を受け、がん看護専  
門看護師の資格取得を目指しま  
す。ほかに地域で活躍するがん  
看護地域貢献看護師養成コース  
や、放射線看護のスペシャリス  
トを養成する放射線看護専門看  
護師コースもあります。そのほ  
か遺伝看護・遺伝カウンセリン  
グコースがあり、指導するのは  
日本で遺伝カウンセラー資格第



遺伝看護を専門にするきっかけは、助産師時代に出生前診断を行ったお母さんが何とも感だつたこと。現場経験を向上心に昇華できる看護師が多く学んでいるのです。

一号を取得した佐々木規子助教です。「出生前診断や遺伝子検査など遺伝医療は急速に進歩しています。しかし患者さんの理解が進歩についていけず、自分の意思で選択することが難しい状況があります。そこで遺伝専門のカウンセラー資格を取った看護師が寄り添うことで、後悔のない治療や出産の選択の手助けをします。まだ資格者も少な

いので全国的にニーズは高いですよ」。佐々木先生は大学病院での遺伝カウンセリング室での相談も行っています。それぞれ、臨床経験を一定以上積んだ看護師がさらに高みをめざすプロフェッショナル養成コースです。取得すべき単位も多くカリキュラムはハードですが、専門看護師資格取得者を毎年数名ずつ輩出しています。

## 脳科学の視点から 発達障害にアプローチ

**作** 業療法学の中で、近年特に注目されているのが、子どもの発達障害。専門の岩永竜一郎准教授にお聞きしました。「注意欠如多動症（ADHD）や自閉症・アスペルガー症候群など、言葉はメディアでもたびたび取り上げられていますが、これらの障がい不登校やいじめ、虐待の原因になること

り通常の学級でも三名前後は該当すると言われており、教師の研修も行われています。「我々作業療法学では生活面、行動面に注目し子どもや家族を支援します。療育や支援を考える際に、脳の中の伝達物質やネットワークなど医学的な見方を取り入れているところも特徴です」。発達障害者支援法が施行されて十年目。専門の療法士がまだまだ少ない一方で、福祉や教育現場でのニーズが高く、人材育成が急がれる専門領域なのです。



まずは子どもの発達を学ぶ学生たち。保健学科のOBに協力してもらい、さまざまな年齢の子どもの接する地域作業療法の実習中。



## 痛みのリハビリテーション論が 全国の教育モデルに活用

**日** 本のリハビリテーションの歴史は五十年と言われていますが、早期から「痛みのリハビリテーション（ペインリハビリテーション）」について研究を続け注目されている研究者が、理学療法学専攻の沖田実教授。国の科学研究費も十

年以上継続して獲得しています。「日本はもちろん欧米でも、延命治療優先のあまり患者が訴える痛みへの対策は遅れていました。しかし高齢化が進むなかで、慢性的な痛みの対策や予防によりやく目を向けるようになったのです」。骨折し安静



沖田先生が痛みや運動機能障害の研究を進めようと思ったきっかけは、五島での在宅ケアで出会った重篤な関節拘縮の患者さんでした。高齢化が進む日本で、ますます重要視されるジャンルです。



これまであまり痛みや運動機能障害についての教育を受けてこなかった医療者への再教育にも使われる先生の専門書の数々。

↓運動機能低下↓痛みから動かさない↓さらに運動機能が低下、という悪循環を断ち切り、体の持続的な活動をキープする。沖田先生は一連のメカニズムについて専門書も多く出版しており、理学療法士の全国組織でもテキストとして使われています。「長崎大学はそもそも、理学療法学では全国を牽引しており、国立大学のなかでは抜群の存在感ですよ」。ちなみに沖田先生のペインリハビリテーションを学べるのは、全国で、長崎大学医学部保健学科のみ。それを知って県外からピンポイントで学びに来る学生もいるのだそうです。



ジュネーブの国際赤十字本部の敷地内にある国際赤十字社博物館で災害対策にチャレンジする学生たち。

**保** 健学科では、毎年約十日間のヨーロッパ研修を実施しています。英語学習を目的とした短期留学とは異なり、保健・看護学の立場から多様な価値観や役割を学習する内容となっています。担当の大西真由美教授にお聞きしました。「昨年度はオランダとスイスを訪問しました。スイスでは世界保健機関（WHO）や赤十字本部等でグローバルヘルスや人道支援について学びました。オランダでは地域助産師クリニックや安楽死協会を訪問し、人の出生と死に関わる保健医療職の役割の多様性を学びました。こういった経験を通じて刺激を受け、英語を含め学習意欲が高まるようです」。国際保健の現場でキャリアを積んできた大西先生のネットワークが活かされたメニューが特徴。研修は基本的に希望者全員が参加でき、英語および学業成績次第では旅費の一部を助成するシステムもあるのだそうです。